

第2 高齢者等の現状と見込み

1 本県高齢者の現状と見込み

(1) 本県の人口構造

2020(R2)年国勢調査によると、県内の高齢者(65歳以上)人口は359,554人、高齢化率は33.8%となり、2000(H12)年における高齢化率の23.0%と比較して10.8ポイントの増加となっています。

なお、その後も本県の高齢化は進んでおり、「山形県の人口と世帯数(県みらい企画創造部)」によると、2022(R4)年10月時点で、高齢者数は362,008人、高齢化率は34.8%となっています。

また、総務省人口推計(2022(R4)年10月)によると、本県の高齢化率は全国平均29.0%を大きく上回っており、全国第5位(秋田県、高知県、山口県、徳島県に次ぐ。同率青森県)の高齢県となっています。

■ 人口の推移(県全体)

(単位：人)

区 分	2000年 (H12年)	2005年 (H17年)	2010年 (H22年)	2015年 (H27年)	2020年 (R2年)	2022年 (R4年)
総人口 (A)	1,244,147	1,216,181	1,168,924	1,123,891	1,068,027	1,040,971
0～14歳人口	186,182	166,653	149,759	135,760	120,086	113,436
15～64歳人口	772,100	739,030	694,110	639,336	578,819	565,527
65歳～ (B)	285,590	309,913	321,722	344,353	359,554	362,008
65歳～74歳 (C)	163,680	153,644	141,672	154,986	168,918	170,719
75歳～ (D)	121,910	156,269	180,050	189,367	190,636	191,289
年齢不詳 (E)	275	585	3,333	4,442	9,568	0
高齢化率 (F)	23.0%	25.5%	27.6%	30.8%	33.8%	34.8%
後期高齢者の割合(D)/(B) (G)	42.7%	50.4%	56.0%	55.0%	53.0%	52.8%
《全国》高齢化率	17.4%	20.2%	23.0%	26.6%	28.6%	29.1%

資料：2000(H12)年～2020(R2)年は国勢調査。2022(R4)年は県みらい企画創造部「山形県の人口と世帯数」。

高齢化率について、2000(H12)年～2015(H27)年は、総人口から年齢不詳を除く。2020(R2)年は不詳補完値による。

2022(R4)年は、総人口、割合ともに不詳補完値による。

(2) 将来人口の推計

本県における将来人口については、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040(R22)年時点で827,776人、2050(R32)年時点で710,838人と推計されています。

年少人口である0～14歳人口、生産年齢人口である15歳～64歳人口、老年人口(高齢者数)はそれぞれ減少が見込まれていますが、75歳の後期高齢者人口は、2035(R17)年まで増加し、その後減少が見込まれています。

■ 人口の将来推計(県全体)

(単位：人)

区 分	2025年 (R7年)	2030年 (R12年)	2035年 (R17年)	2040年 (R22年)	2045年 (R27年)	2050年 (R32年)
総人口 (A)	1,005,352	945,122	886,155	827,776	769,130	710,838
0～14歳人口	102,968	88,003	77,722	72,214	66,824	60,360
15～64歳人口	540,363	502,083	464,302	417,008	372,617	335,667
65歳～ (B)	362,021	355,036	344,131	338,554	329,689	314,811
65歳～74歳 (C)	155,623	136,338	124,237	124,897	126,505	115,321
75歳～ (D)	206,398	218,698	219,894	213,657	203,184	199,490
高齢化率(B)/(A) (E)	36.0%	37.6%	38.8%	40.9%	42.9%	44.3%
後期高齢者の割合(D)/(B) (F)	57.0%	61.6%	63.9%	63.1%	61.6%	63.4%
《全国》高齢化率	29.6%	30.8%	32.3%	34.8%	36.3%	37.1%

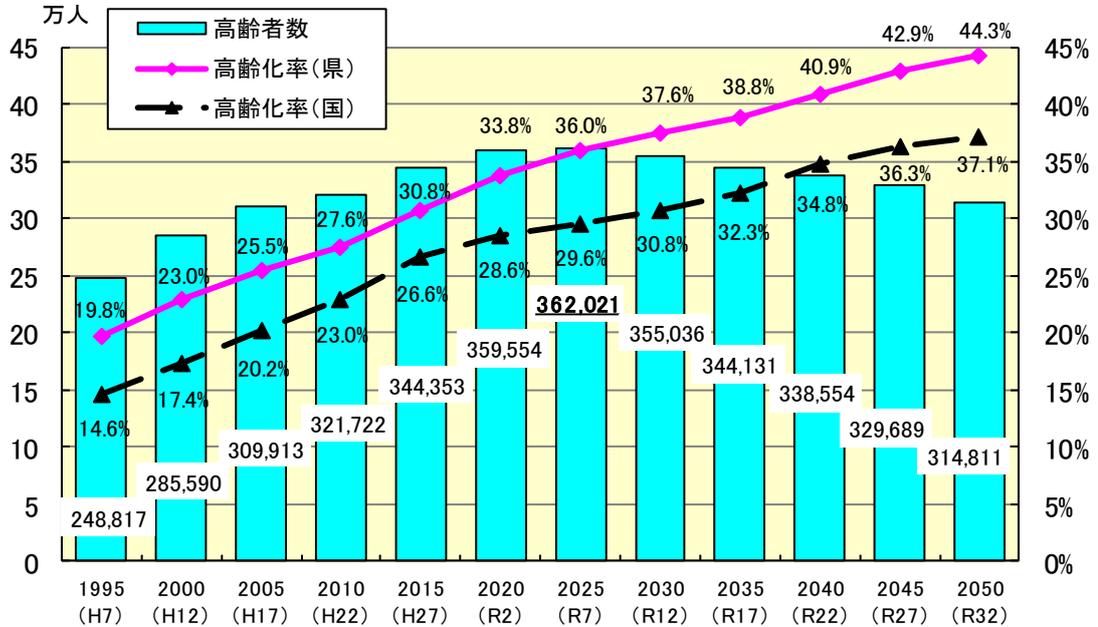
資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(2023(R5).12)

(3) 高齢者の人口

① 高齢者全体の状況

本県の高齢者数は団塊の世代がすべて後期高齢者となる2025(R7)年頃まで増加が続きます。また、高齢者人口はその後減少に転じますが、年少人口及び生産年齢人口の減少に伴い高齢化率は引き続き上昇し続け、2050(R32)年には44.3%に達する見込みとなっています。

■ 本県の高齢者人口と高齢化率の推移

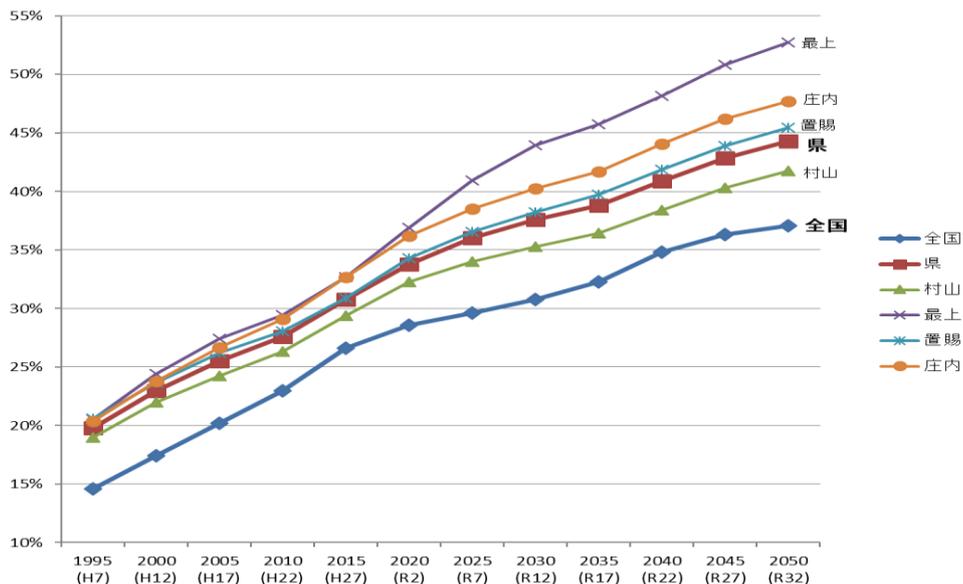


資料: 1995(H7)年～2020(R2)年「国勢調査」

2025(R7)年以降 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(2023(R5).4)及び「日本の地域別将来推計人口」(2023(R5).12)

地域別では、最上地域、庄内地域では県平均より高齢化率が高く、村山地域では県平均より低い状況で、これら3地域については、今後も同様の傾向が続く見込みです。また、置賜地域は、ほぼ県平均で推移することが見込まれます。

■ 地域別高齢化率の推移



資料: 1995(H7)年～2020(R2)年「国勢調査」

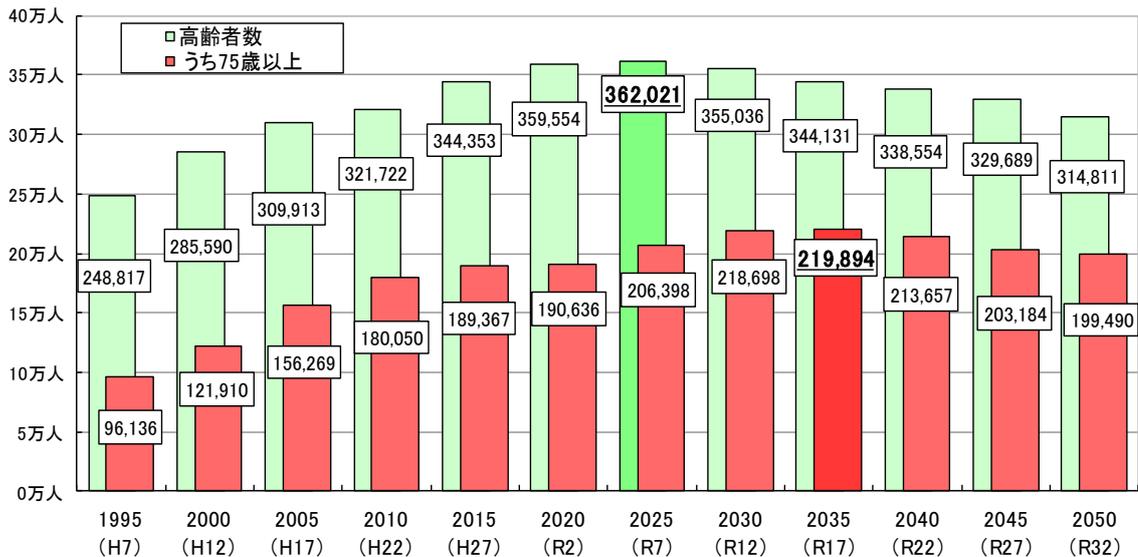
2025(R7)年以降 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(2023(R5).12)

② 後期高齢者の状況

前述のとおり、高齢者数が最大となるのは2025(R7)年頃と見込まれており、75歳以上の後期高齢者数については、2035(R17)年頃が最大となることが推計されています。

年齢階級別に要介護認定率を見ると、要介護認定率は年齢が上がるごとに上昇しています。また、要介護認定率を前期高齢者と後期高齢者に区分すると、2022(R4)年9月時点で前期高齢者は3.4%、後期高齢者は30.1%の割合となり、後期高齢者は前期高齢者に比べると約9倍の要介護認定率となっています。後期高齢者の増加は要介護認定率の増加につながっています。

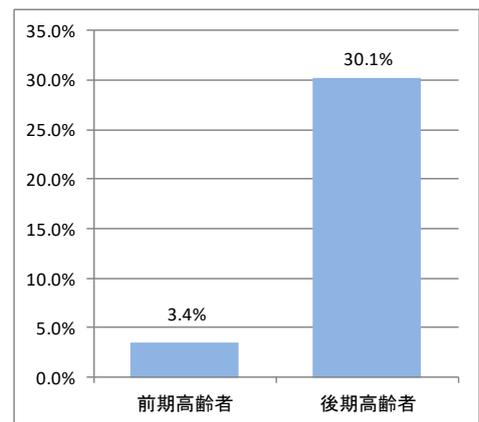
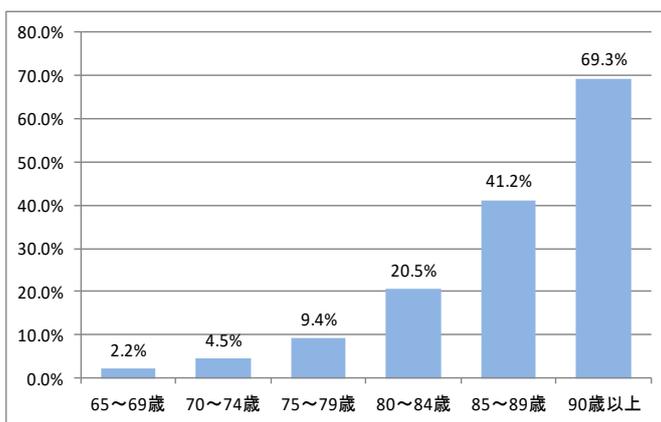
■ 全高齢者数の推移と後期高齢者数の推移の比較



資料：1995(H7)年～2020(R2)年「国勢調査」

2025(R7)年以降 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(2023(R5).12)

■ 年齢と要介護認定率の関係について

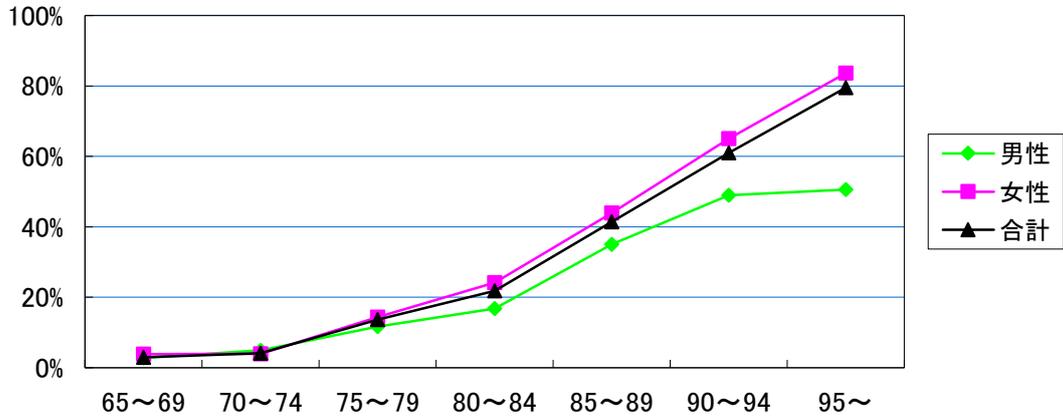


資料：県高齢者支援課調べ(2022(R4).9)

③ 認知症高齢者

厚生労働省の研究事業によると、認知症については、年齢が高くなるほど有病率が高くなる結果となっています。

■ 高齢者の年齢別の認知症有病率

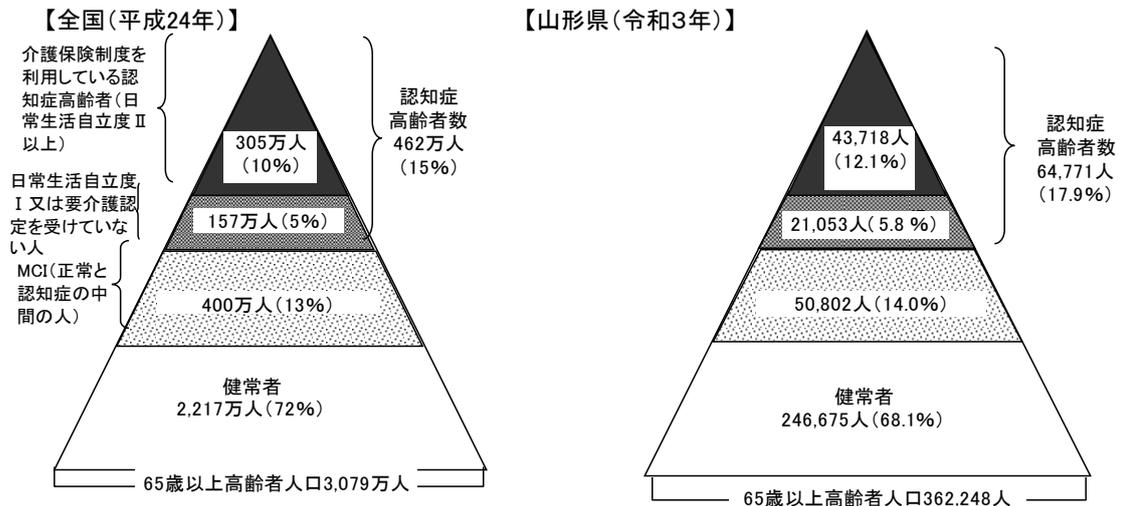


資料：厚生労働省研究班「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」(2013(H25).3)

認知症の有病率を、本県高齢者の人口構成に当てはめると、認知症と認知症予備軍と言われるMC I¹を合わせた高齢者数は10万人を超え、本県高齢者の約3人に1人と推計されます。

今後、後期高齢者の増加が推測されており、認知症高齢者の増加も見込まれます。

■ 認知症高齢者の現状（推計値）（全国・山形県）



資料：全国は、厚生労働省老健局「認知症高齢者の日常生活自立度」(平成24年8月)及び「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」(平成25年3月)
 山形県の65歳以上高齢者人口は、「山形県の人口と世帯数(令和3年10月1日現在)」
 自立度II以上の認知症高齢者数は、高齢者支援課調べ(令和3年4月1日現在)
 MCI・認知症高齢者数は、厚生労働省研究班報告(平成25年6月公表)の有病率による推計

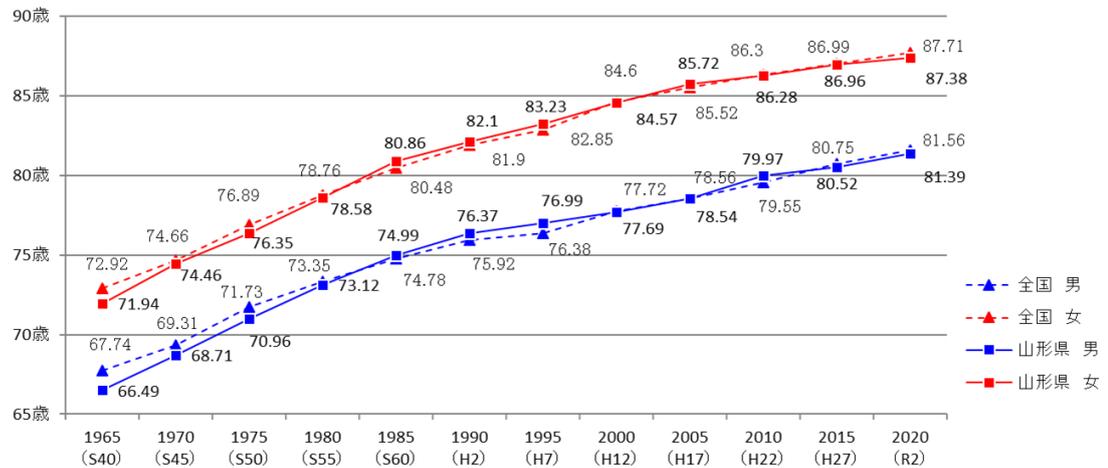
¹ MCIとは、認知機能(記憶、決定、理由づけ、実行など)のうち1つの機能に問題が生じているが、日常生活には支障がない状態

④ 平均寿命、健康寿命等

ア 平均寿命について

2020(R2)年時点で、本県の平均寿命は、男性は81.39歳（全国平均81.56歳、全国第26位）、女性は87.38歳（同87.71歳、同第35位）となっています。

■ 平均寿命の推移（全国・山形県（男女））



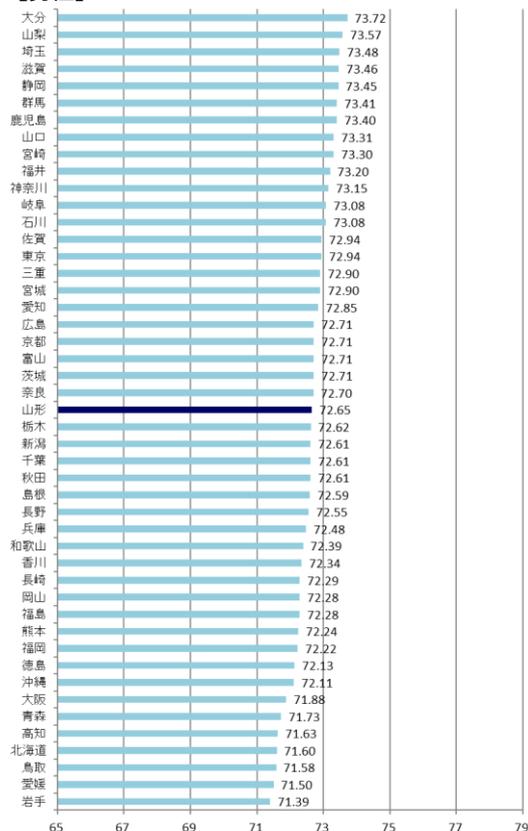
資料：厚生労働省「都道府県別生命表・完全生命表」

イ 健康寿命について

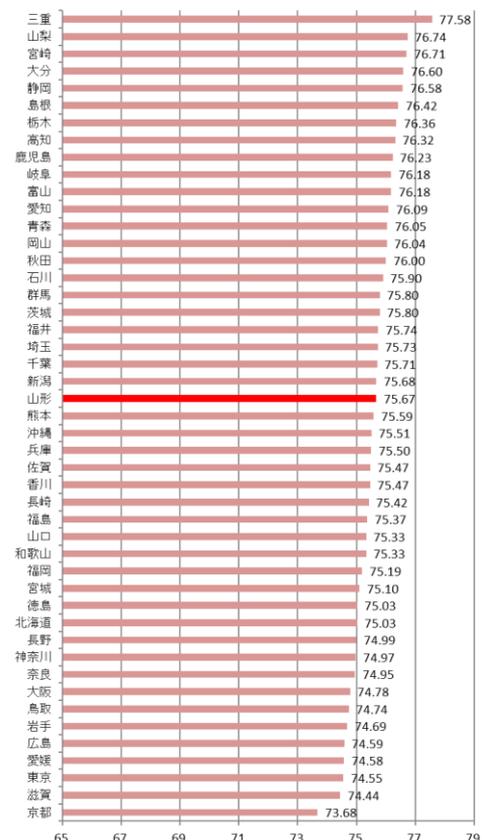
2019(R元)年時点で、本県の健康寿命¹は、男性は72.65歳（全国平均72.68歳、全国第24位）、女性は75.67歳（同75.38歳、同第23位）となっています。

■ 都道府県別 健康寿命の比較

【男性】



【女性】



資料：厚生労働省研究班調査(2019(R元))

¹ 健康上の問題で日常生活に制限されることがなく生活できる期間

ウ 健康、疾病の状況

(7) 特定健康診査¹の受診率

本県の特定健康診査（40歳～74歳）の受診率については、上昇傾向にあります。

■ 特定健康診査（40～74歳）実施状況の推移（市町村国民健康保険加入者、県全体）

（単位：人）

	2014年 (H26年)	2015年 (H27年)	2016年 (H28年)	2017年 (H29年)	2018年 (H30年)	2019年 (R1年)	2020年 (R2年)	2021年 (R3年)
対象者数	193,280	187,426	180,881	174,880	169,313	165,098	164,655	160,853
受診者数	86,382	86,130	84,062	82,128	82,429	81,987	77,744	79,651
受診率	44.7%	46.0%	46.5%	47.0%	48.7%	49.7%	47.2%	49.5%

資料：山形県国民健康保険団体連合会調べ

(4) 生活習慣病の状況

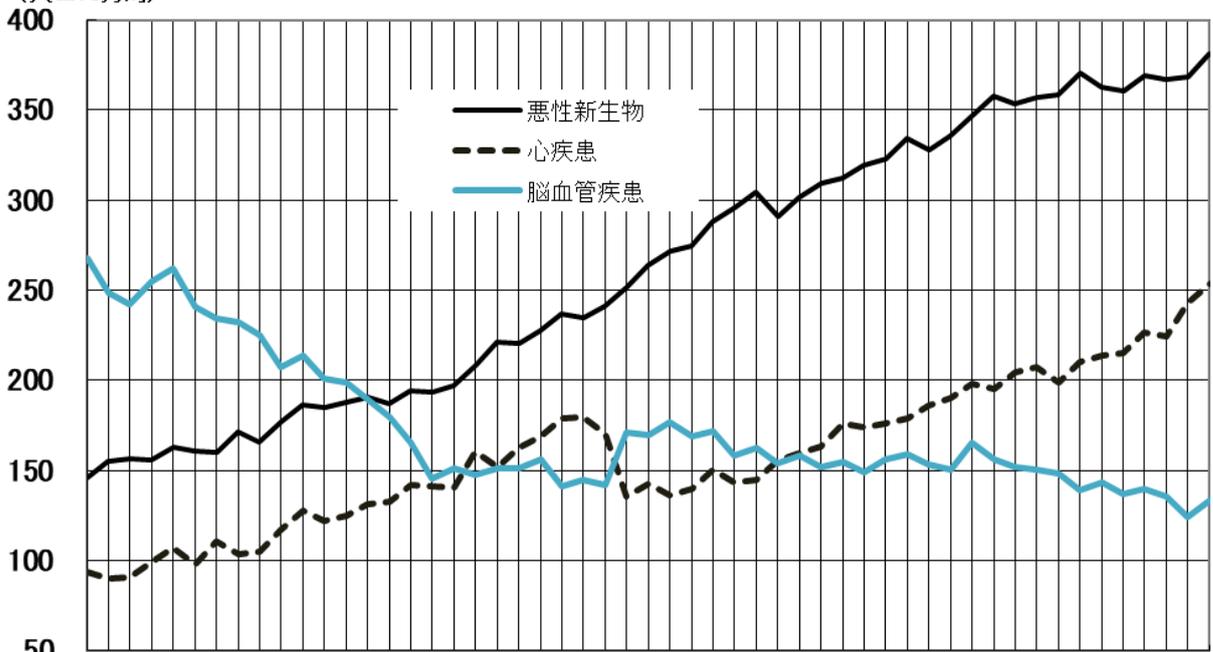
本県の2022（R4）年の年間死亡者数は16,883人で、そのうち三大生活習慣病（悪性新生物²、心疾患、脳血管疾患）による死亡者数は47.0%を占めています。

死亡率を見ると、悪性新生物と心疾患による死亡率は増加傾向で推移していますが、脳血管疾患による死亡率は横ばいで推移しています。

また、三大生活習慣病の人口10万人に対する死亡率は、悪性新生物が381.5（全国8位）、心疾患が253.9（全国7位）、脳血管疾患が133.4（全国3位）となっており、いずれも全国に比べ高い水準となっています。

■ 本県の三大生活習慣病の死亡率の推移

（人口10万対）



資料：厚生労働省「人口動態調査」

¹ 日本人の死亡原因の約6割を占める生活習慣病の予防のために、40歳から74歳までの方を対象に、メタボリックシンドロームに着目した健診

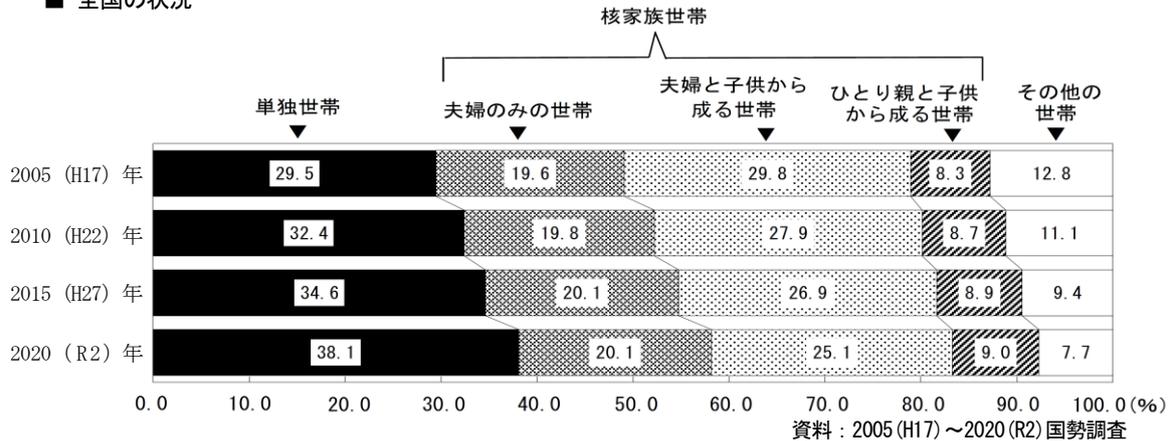
² がん

⑤ 世帯の種類、家族類型

2020 (R2) 年度の国勢調査において、一般世帯数を家族類型別に見ると、全国では、「単独世帯」が最も多く、次に「夫婦と子供から成る世帯」となっています。

また、2005 (H17) 年からの推移を見ると、「単独世帯」、「夫婦のみの世帯」の割合が増加傾向にあり、「夫婦と子供から成る世帯」の割合が減少傾向となっています。

■ 全国の場合



本県は、全国に比べ単独世帯の割合が低く、三世帯同居が全国平均に比べ高い割合となっています。

■ 世帯類型別構成

(単位：世帯)

	総世帯数	単独世帯	夫婦のみ世帯	夫婦と子の世帯	三世帯同居	その他
全国	55,704,949 (100.0%)	21,151,042 (38.0%)	11,158,840 (20.0%)	13,949,190 (25.0%)	2,337,703 (4.2%)	7,108,174 (12.8%)
山形県	396,792 (100.0%)	112,791 (28.4%)	75,330 (19.0%)	89,321 (22.5%)	55,238 (13.9%)	64,112 (16.2%)

資料：2020 (R2) 国勢調査

世帯類型別に高齢者数を区分すると、一人暮らしの高齢者や夫婦のみで暮らす高齢者¹割合は全国平均に比べ低く、三世帯同居の高齢者割合は全国平均に比べ高い状況にあります。

■ 世帯類型別に区分した高齢者割合

(単位：人)

	高齢者総数	一人暮らしの高齢者	夫婦のみで暮らす高齢者	夫婦と子で暮らす高齢者	三世帯同居で暮らす高齢者	その他の高齢者
全国	35,335,805 (100.0%)	6,716,806 (19.0%)	12,678,875 (35.9%)	5,501,127 (15.6%)	3,215,747 (9.1%)	7,223,250 (20.4%)
山形県	359,554 (100.0%)	43,451 (12.1%)	91,686 (25.5%)	50,559 (14.1%)	83,729 (23.3%)	90,129 (25.1%)

資料：2020 (R2) 国勢調査

¹ 男女ともに65歳以上の夫婦